西中だより

H28　第1号
H．28．4月
発行責任者
校長　荻野昭彦

平成28年度がスタートしました。

今年度から伝統ある西中学校の校長を勤めることになりました。

どうぞ，よろしくお願いいたします。

月一回のペースで，この『西中だより』を保護者や地域の皆様に向けて発信します。

学校の様子や，生徒の様子を知るきっかけとなり，これまで以上に西中へのご支援をいただけたらと思っております。ご理解の上，ご協力をお願いいたします。

２８年度の西中学校のメンバー構成は，右のとおりです。一日でも早く，いいチームになれるよう頑張ります。

年度のスタートとなる４月１日に，私は，「**すべての生徒が幸せに**なることを目指そう」と話しました。

そのためには，私たち教職員が幸せでないとだめだと。さらに「**幸せ**」をどうイメージするかについて，「**健康であること**」（特に心が），「**明るく，活力があること**」ではないかと話しました。そして，生徒のためにも私たち自身のためにも，互いに連携し合って，少しでも綿密に連絡や調整をしていこうと話しました。

私は，「**健康**」を『**夢や目標を実現するための資源**』だと考えています。さらに，心も体も健全で，日日，夢や目標に向かって進んでいる人が，明るく，活力のある人だと思っています。

入学式では，「毎日の学校生活に，目的や目標をもって，前向きに臨んでほしい」と新入生にお願いしました。　始業式では，すべての生徒が学校生活を幸せに送れるように，互いに支え合えるような言葉かけをしてほしいと話しました。

新入生は，私の方をしっかり向いて，一生懸命聞いてくれました。始業式でも，全校生徒がしっかり話を聞いてくれました。中学校生活のスタート，**年度のスタートにあたっての生徒に意欲**を肌で感じ，私は本当に幸せだと思っています。この状態が継続するように，さらに高まるように，頑張っていこうと思っています。ご支援の程，どうぞよろしくお願いします。

校　長	荻野　昭彦	保体
教　頭	大塚　克哉	美術
教務主任	加藤　克人	国語
生徒指導主事	堀内　浩二	英語
養護教諭	輿石　眞澄	
講　師	輿水　清枝	音楽
事務職員	佐々木恭子	
図書館司書	山岸　一恵	
学校技能員	内田　勤	
給食配膳員	大森美奈子	
外国人英語教師	シェイラ・バーガン	
１学年主任	石井　治美	英語
１学年副主任	高橋　幸司	美術
１年１組担任	赤岡　正人	数学
１年２組担任	長田　仁志	理科
１年３組担任	加藤　恵子	理科
１年４組担任	二橋　護	国語
１年５組担任	河野　由美	保体
なでしこ学級担任	塩澤　眞弓	国語
１学年教務	永田　亮一	社会
２学年主任	髙岡　健	理科
２学年副主任	吉田美奈子	数学
２年１組担任	樋口　知美	保体
２年２組担任	高野　宏文	英語
２年３組担任	長田由佳里	国語
２年４組担任	山口　剛史	保体
２年５組担任	田邉　健	数学
２学年教務	金丸　有衣	社会
３学年主任	有賀　雄三	理科
３学年副主任	向山　聡	社会
３年１組担任	大森　豊	英語
３年２組担任	深澤　茉莉	家庭
３年３組担任	西川　卓	技術
３年４組担任	鈴木真由美	数学
３年５組担任	北原　宏明	社会
カワセミ学級担任	石倉　礼子	音楽
３学年教務	井口　飛鳥	英語
特別支援教育支援員	望月　弘美	

思い遣りの心を！

入学式に新入生を迎える言葉の中で，「**人を支える３つのこと**」について話をしました。

３つは，「**周囲の人たち**」「**文字や言葉**」そして「**体験**」だと思っています。

始業式にその中の「文字や言葉」の話をしました。学習や読書の中で出会う文字や言葉，周囲の人からの声かけ，そうした「文字や言葉」が時として大きな支えになることがあります。

なので，逆の効果となる人を傷つけたり，貶めたり，悲しい気持ちにさせたりする言葉を平気で使ってはいけないこと。思い遣りの心をもって，相手にとって優しい，励ましとなる，支えとなる言葉かけを常に心がけてほしいこと。を全校生徒に話しました。

西中学校の中に，**互いに支え合うような言葉かけが広がってくれること**を願っています。

〔年度初めの慌ただしい中でしたが，**「交通安全教室」「情報モラル講話」**（１年生対象）を行いました。〕

○　甲府署　**企画規制係長青木雅人様**の講話を基に，交通安全教室を行いました。

新たな気持ちで，交通ルールを学び，命を守ることを最終目標として，安全に対する意識を高めてくれたらと思っています。1年生ばかりでなく，すべての生徒にこの節目を利用，**交通安全や安心・安全な生活**について**見直してほしい**と思っています。

○　携帯やスマホについて，使用に際してのマナーやルール，どのように使うべきかなどについて，山梨県警察本部生活安全課**少年対策官の岡林健児先生**の話を聞きました。

生活の中に，携帯やスマホ，電子ゲームが蔓延しています。

小中学生の**機器とだけ向かい合う時間**は，一日に2・3時間にも及ぶといわれています。

心や体が一番急激に成長したり，変化したりする中学生期に，もっと家族と接し，もっと多くの人とコミュニケーションしなくていいのか心配です。多くの人とふれあう体験の中で心や体を耕すべきこの時期に，多くの時間を機器と向き合って生活してしまっていいのでしょうか。

是非，**家族などで話し合う時間を設け**，子供たちの生活を見直してほしいと思っています。

１８日の朝の打ち合わせで，熊本地震に関わって，私たち自身も生徒も，周囲への優しさや，互いに思いやることがさらに高められたらと話をしました。そうしたことを心がけていれば，近くに被災した人が来たとしても，当たり前のように優しくしてあげられるはずです。

また，万一大地震などが起き，避難生活を強いられたときなども，互いに支え合って，優しくたくましく生きていけるのではないかと思っています。

私がよく使う言葉に**「連携・協働」**という言葉があります。これは，スポーツ基本法や基本計画を学んだときに，計画等を進める際のキーワードとして覚えた言葉です。同様に，熊本地震などへの対応や，避難所で生活していくためには，人々の「連携・協働」が不可欠なはずです。

この「連携・協働」の基本は，**相手を補完しようとすること**だと私は思っています。**互いに足りない所を補い合い，計画や目標の実現に向かうということ**です。互いの良さが出し合えることがベストです。

平成２８年度の西中学校のスタートは，いい形でできたと感じています。しかし，西中を取り巻く環境や状況がどのように変わるか，また，災害や事件等どんな形で起こるかなど予測できません。

ですので，少しでも早く，保護者や地域の皆様と連携・協働できる，互いに補完し合える，良好な関係作りに努めて参りたいと思っています。どうぞ，よろしくお願いします。